



国立競技場跡 更地を公開

広がる地平 一時の静寂

取り壊しが終わった国立競技場の跡地(新宿区)が十六日、報道陣に公開された。更地に一步、足を踏み入れて感じたのは、その広さ。新宿の高層ビルを望みながら、都心であることを忘れさせるような静寂がそこにあった。

「森の中に競技場があったんだなと感じました」。元陸上選手の為末大さん(三もは九月に視察した際、こんな感想を記者団に漏らした。

かつてバックスタンドがあった場所に立った。東京ドーム一・五個分に当たる約七万三千平方メートルの敷地を覆うのは、砂ぼこりを防ぐために種をまいたクローバー。さらに周辺には木立が茂る。緑が、目に優しい。

だが新しい競技場はこれだけの広さをもってもまだ足りない。周辺の明治公園や日本青年館なども取り込み、さらに一・五倍の敷地が必要になる。

解体前の国立競技場(2014年10月10日)



森の中のスタジアムは消えた。新しいスタジアムはどんな顔を見せるのだろうか。事業主体の日本スポーツ振興センター(JSC)はこの日、設計・施工業者の公募を締め切った。十二月には決まる。



④解体工事が完了した国立競技場。敷地には草が生え、水たまりができていた。16日午前10時7分、新宿区で、本社へ「いま一つ」から、⑤報道関係者に公開された国立競技場の敷地(魚眼レンズ使用)

